

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : University of Wisconsin, Stout

留学期間 : 平成 28 年 8 月 29 日 ~ 平成 29 年 5 月 17 日

私は、この1年間の交換留学を通して多くの事を経験するとともに、多くの事を学びました。1年間の留学生活は、私にとってとても有意義なものだったと言えます。アメリカへの留学は、私には大きな一歩を踏み出すことでした。なぜならば、親や知人、友人の元を離れ、全て1人でこなさなければならないからです。これまで私は、家事の一切を母に任せきりで、何かあればまず、自分で解決しようとするのではなく、すぐに周りに頼ってばかりいました。私は、1人っ子ということもあり、何でも甘え過ぎる癖が付いていたのかもしれない。また、私は周りに友人がいる状態ではなく、全く1人での留学でした。私は、少し人見知りの所があるのですが、そんな状態で言葉の壁もあるゼロからの状態で、留学生活を上手くやっていけるのかという大きな不安と、未知の経験や新しい出会いへの期待を抱きながらアメリカへ旅立ちました。

アメリカに着いてまず初めに困ったことは、インターネット類の機器が全て使えなかったことです。飛行機を降りてから目的地まではシャトルバスに乗る必要があったので、事前に予約してはいたのですが乗り場が全く分かりませんでした。時間が迫る中で右も左も、今自分がどこにいるかも分からず、インターネットが使えなかったことは本当に不安でした。通行人や空港職員の方に尋ねたりもしたのですが、着いてすぐはやはり、英語を話すことにも聞くことにも全く慣れていなかったため、完全にお手上げ状態で泣いてしまいましたが、荷物を運搬していた方が困っている私に声をかけ、親切に案内してくれたので、なんとか事態を乗り切ることが出来ました。

私の人見知りしやすい傾向は、なぜか外国人に対してはそれが軽減されるということがあります。ですので、そのことを活かしてアメリカでは自分から積極的に行動することを心がけましたし、行動するかどうか、少しでも迷うことがあれば行動する方を選ぶようにしました。例えば、留学生が集まるイベントや“交流”の文字があるイベントには積極的に参加していました。その甲斐があり、留学中には国籍を問わず、多くの友人を作ることができました。また、親友と呼べるまでに親しくなった友人もできました。春休みにはその友人達と一緒にアメリカのサウスダコタ州に2泊3日のドライブ旅行で、ラッシュモア山やデビルズタワー、クレイジーホース記念碑を観光したりしました。旅行からの帰り際には、スピード制限の看板の見落としのために、スピード違反で現地の警察に止められたりもしました。その時は不安が多かったのですが、今ではそのことも含め、旅行先での経験は全ていい思い出だと言えます。冬休みには、アリゾナ州のフェニックスに留学している従兄を訪ねて一緒に旅行をし、年越しもアリゾナで過ごしました。アリゾナにいる間に従兄と叔母と車で5時間かけてサンディエゴまで行きました。アメリカにいて初めての海だったのですごく嬉しかったのと、ウィスコンシンはずっとすごく寒かったので暖かい気候も良かったです。周りの人に比べるとあまり旅行に行けなかった方なので、アメリカにいる間に行けるところには行っておけばよかったと少し後悔の残るところはありません。

アメリカの大学では、日本の大学教育との違いも実感しました。日本では基本的に定期考査前に勉強するだけだったのですが、アメリカでは日々の授業で毎回課題がたくさん出されることと、言葉の壁もあり課題をこなすのにすごく時間がかかってしまうので本当に大変でした。授業についてエッセイを書かないといけない時も、授業をあまり十分に理解できていないために一から自分で理解し直して書かないといけなかったもので、毎回何日もかけて完成させていました。私はもともと、航空関係の授業を取りたいと考えていたのですが、留学先に航空の授業がなかったので少し残念でした。日本語の授業があれば、そこでチューターなどをしてヘルプに入りたかったのですが、私の行った大学では日本語の授業もなくてできませんでした。自分が日本語を教えることで英語も上達できると考えていたので実行できなくて残念でした。ほかの方法として、英語のリスニングとスピーキングのスキルを上げるためにはやはり、わからないなりに量をこなすことが大切だと思ったので、恥ずかしがらずに自分から積極的に話しかけるようにしていました。自分の言いたいことがうまく伝えられなかったり、相手の言っていることがわからなかったりしましたが、時間が経つにつれて耳が慣れて聞こえるようになって、周りがどのように話しているかを聞いて吸収していました。初めと変わったところは、相手の言っていることがわからない場合でも「それってどういう意味？」などわからないことを素直に「わからない」と言えるようになったことです。やはり、話せば話す分だけ英語は身につくので、積極的に話そうとする姿勢が英語上達のカギであると実感しました。

帰国したのちに TOEFL iBT のテストを受けたのですが、やはりリスニング力は格段に上がっていると実感しましたし、実際の結果としても数字に表れていました。留学を通して得たリスニング力を落とさないようにして、近々、就職活動に役立てるためのスキルとして TOEIC のテストを受けようと思っています。

これから留学する方へのアドバイスとしては、単語力をつけていくこと、躊躇せずに話すこと、偏見を持たないことです。単語力をできるだけつけておくと、会話する際にきちんとした文章にできなくても、単語だけでもなんとかなるからです。初めは単語だけで会話をつなぐだけでも、それを繰り返すうちに、相手を見本にして文章が作れるようになってきますので、単語でも会話できる環境を作っていくことをお勧めします。偏見を持たないというのは、それぞれの個性を尊重するという、マナーとして大事ななと思いました。